

グリーンランド議会選（599号）

2025年 4月 石館

デンマーク領グリーンランドで3月11日議会選が行われた。段階的な独立を目指す民主党が第一党となった。トランプ大統領の“購入”の発言を受け、デンマークからの独立が主要な焦点となった。米・中・ロがせめぎあう地政学的な要衝としての重要性が高まる。



グリーンランド総選挙、米欧の資源戦略揺さぶるレアアース採掘...

グリーンランドのある北極圏ではロシアと中国が活動を強めている。ロシアはウクライナ侵略に伴う西側の制裁を受け頼みの対中貿易で北極海航路の重みが増した。

中・ロの動きを警戒するトランプ氏はグリーンランド購入に野心を見せる。

地球温暖化も同地域の価値を

高める。面積の8割以上が氷に覆われるグリーンランドは氷床の面積が縮小している。1985年から2022年の間に福岡県の面積に相当する5000平方キロ以上が失われた。

溶解が進めばレアアース（希土類）など地下資源を巡り、米中ロのせめぎあいが更に激しさを増す。冬場の海氷域が縮小し北極航路が開通している期間も延びた。北極圏が大国間の対立と競争の火種になっている。

民主党は定数31議席のうち10議席を得て第一党になった。同党は経済成長を優先し、他の主要政党より時間をかけて独立を目指す立場をとる。改選前は4番手の3議席だったがニールセン党首も“ここまで伸びるとは”と驚く結果となった。この一因は高まる反米感情だ。北極圏で覇権を争う米中ロの印象を有権者

に質問するたびに米国への嫌悪の言葉が並ぶ。1月の世論調査では米国の領有を望まないとの回答が85%に上った。

今すぐ独立すれば米国の影響が強まりかねない。少数政党だった民主党躍進の背景には独立を望みながらも、拙速に動けば更なるリスクの増大を招くとの懸念がある。



解説 グリーンランド議会選挙 (2025年3月11日)

1953年まで200年以上にわたりデンマークの植民地だったグリーンランドにとって独立は悲願だった。

79年に自治権を獲得し、2009年の自治法改正に伴いグリーンランドが望めば一定の手続きを経たうえで

独立できる規定を明記した。この協定により、政治的な権限と責任がデンマーク政府からグリーンランド政府に移譲された。政府は、選挙で当選した31人の議員からなる立法府（議会）と、9人のメンバーが大臣を務める行政府で構成され、政務を行うほか、特定分野の立法や関連する財務を担っている。

独立機運は2010年以降、本格的に高まってきた。



デンマーク重視派、第1党にグリーンランド議会選 トランプ発言...

右側の党ほど独立志向が強い。

第2党に躍進し民主党に迫る8議席を獲得したナレラク党は最も早い独立を主張するが彼らとて、現実に立ちはだかる壁は認識している。“完全なる独立はすぐには出来ないと分かっている”、同党のフェンカー氏は“まず小さな一歩から踏み出す必要がある”と唱える。

歳入の5割以上をデンマーク政府からの補助金に頼り、安全保障ではデンマーク軍の力を借りるグリーンランド。主権を求める民意とは裏腹に、大国間の覇権争いの渦中にある人口5万6000人の“小国”が独立を目指すのは容易ではな

い。経済面からみても独立への障壁は高い。水産業を主産業とするグリーンランドの域内総生産は32億ドル（約4700億円）でデンマークの国内総生産（GDP）の1%に満たない。

議会選で議席を得た5政党のほとんどは独立に前向きで、独立そのものに反対する政党はない。独立機運の高まりと並行してデンマーク政府と連携しつつ自治権の拡大を目指すのが現実的な進む道であろう。



グリーンランドの選挙風景

中国は鉱物など商業利権に目立たないように触手を伸ばして居るが今のところ現地の住民は中国の脅威を感じていない。中国はオーストラリアと同じようにまさに

静かな浸食（silent invasion）を図っている。この点では中国の方が米国より一枚上手と言える。

トランプ大統領のグリーンランドへの関心について、今まで最大与党だったイヌイット友愛党党首のエーエデ首相は選挙前の3月5日に、“我々は、米国人にもデンマーク人にもなりたくない。我々はカラーリット（グリーンランドの先住民族）だ。米国人もその指導者たちもそれを理解する必要がある。我々は売り物ではない”と発言。

一方、ナレクラ党を率いるペーレ・ブロバウ氏はデンマークからの独立を望むが、それが実現できない場合、デンマーク領としての現状より米国への接近を望むとする発言も報じられている。

デンマークの国営放送局は、今回の選挙結果はデンマークのフレデリクセン政権にとって逆風になると報じた。米国との連携を打ち出し早期独立を目指すナレクラ党の躍進と、連立交渉の長期化による新政権樹立の遅れが、政治の空白期間長引かせ、グリーンランドの政治が不安定になることが懸念されるとした。今後、民主党を中心とした連立交渉が行われる。

その後3月28日になって、新自治政府の枠組みが決まった。デンマークとの関係を重視する民主党を中心に段階的な独立を目指す4党が連立政権を組むことで合意した。

トランプ大統領がグリーンランド領有に意欲を示しており、連立が合意されたその日にバンス副大統領が訪問した。新自治政府は経済と安全保障の基盤を固めながら独立への道を探る方針だ



新自治政府はバンスの訪問は“同盟相手に敬意を示すものではない”と反発した。

ヴァンス米副大統領、グリーンランド訪問中にデンマークを叱る ...